



人 人 にんにん連携



発行元：甲賀圏地域連携検討会・甲賀圏地域医療福祉推進協議会 公立甲賀病院内 地域医療連携室 0748-62-0234 (代)

「入院から在宅へ円滑な移行を推進するために～高齢者の誤嚥性肺炎を起こさせないために～」

甲南地域包括支援センター 曾羽 久恵 氏

高齢者の肺炎は「食欲がない、何となくおかしい」という症状の特徴もあり、気づいた時には悪化している場合があります。高齢者の肺炎は急速にADLが低下する注意すべき疾患と言えます。今回、病棟内で看護師、管理栄養士、言語聴覚士が連携し、各々の専門性を発揮し在宅生活へと繋いだ事例でした。主治医の指示でチームが生まれ、円滑な嚥下と栄養摂取をめざし、ADLの改善、嚥下機能の評価、食材の形態の工夫、口腔ケアなど専門的なアセスメントに基づきケアされました。退院後も誤嚥性肺炎を防止するためにケアマネジャー中心にサービスを継続しています。歯科医師の立場から口腔ケアが誤嚥性肺炎の予防に効果があることを再度学びました。在宅生活において誤嚥性肺炎を予防するためには、病棟での口腔ケアを在宅生活で継続する必要性をご家族の方に理解していただく事が重要という課題が見えてきました。家族の口腔ケアへの意識は低い状況で、意識を高めていくための啓発を継続して行うことが必要です。まずは病院・在宅関係の支援者が口腔ケアについて正しく学び、連携した取組を継続することが重要と学びました。

事例検討会報告

第4回 甲賀圏地域連携検討会が開催されました

日時：平成26年7月17日(木) 14時～16時

場所：甲賀合同庁舎 4A 大会議室

参加者：医療関係者 21人、居宅介護支援事業所 19人、サービス事業者 10人、行政等 13人 **計 63人**

テーマ：「顔の見える関係から始まる在宅支援 ～誤嚥性肺炎を繰り返さないために～」

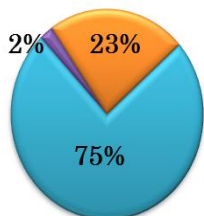
内容：事例について、各担当者から関わりについてコメントを頂き、グループワークでは①多職種との連携で良かった点、②学んだことから自分たちで実践できることについて、話し合いを行いました。



アンケート集計の結果

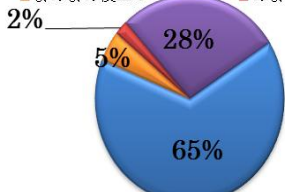
今回の「事例検討」の内容は理解できたか？

■とても理解できた ■理解できた ■まあまあ理解できた



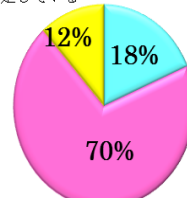
今回学習した内容は今後あなたの現場での実践に役立つと思いますか？

■とても役立つ ■役立つ ■まあまあ役立つ ■あまり役立たない



今回の研修に参加して満足していますか？

■とても満足している ■満足している ■まあまあ満足している



《感想から一部抜粋》

- ・薬局薬剤師の立場でしかなかなか連携について考えられないが、このような会で他職種の方と話ができることにより刺激になった。また、歯科への案内も必要だと感じた。
- ・居宅で出来ることをできる範囲で無理なく介護ケアを継続していけるように、アドバイスをしていかなければと思った。アドバイスもより具体的に理解しやすい言葉で説明する様にしていきたい。
- ・チームでの連携によってよりよい生活・その人らしい生活ができるような支援ができるんだと感じた。
- ・初めての参加でしたが、みんな活発に意見交換されていて勉強になった。

事例検討会の感想（参加者からの声）



- ・薬局薬剤師が在宅でできる事を他職種の方に質問を受けることが多かったのですが、今回のグループに薬局と連携されているケアマネの方がいらっしゃり、各々の職種が専門性を活かしていると伺い、この検討会のお陰だと思いました。今回のテーマである嚥下困難は薬局でも直面し、訪問歯科の案内、高カロリー栄養剤やとろみ剤を提案し、その内容をケアマネさん等にフィードバックをする事で連携を更に図りたいと思いました。
（あいこうか薬局 薬剤師 山本 真規子 氏）

- ・今回研修会に参加して、地域のいろいろな職種の方とグループワークをさせていただき、かなり新鮮な印象を持ちました。病院外の方と一緒に学習する機会は少なく、いろいろな立場で話し合う事で情報の拡がり、多面的に一患者さんを看る事ができるという事を学びました。今後も機会があれば積極的に地域の方と意見交換をして視野を拡げたいと思います。又、甲南病院のチームを私の病院にも結成できるよう日頃からコミュニケーションを密にとっていきたいと思います。
（国立紫香楽病院 看護師 下川 万里子 氏）

- ・今回、参加して感じた事は、多職種が連携することで退院に向けてのサポートが充実するという事、それにより入院期間が短くなり、患者・病院双方にいい結果となるという事です。しかし、退院までがゴールではなく退院後の地域でのサポートも重要であり、看護師だけでない他の職種の介入も必要だと感じました。栄養管理課では、今年度の目標に在宅訪問栄養指導を上げており、退院後の患者さんとも関わっていけるように稼働に向けて努力していきたいと思います。
（公立甲賀病院 管理栄養士 長尾 彩香 氏）

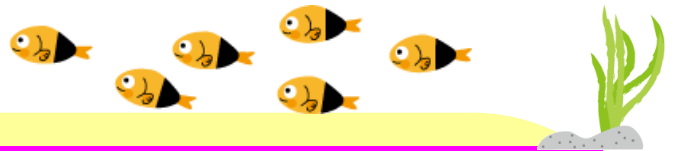
- ・今回の事例検討会で病院という大きな環境の中で多職種間の連携が良く取れていて円滑に退院支援が行われたことが良くわかりました。職種間の壁を作らずに互いに連携し合うことは大切なことで何より利用者様にプラスに働くことは良い連携なのだと思います。その中でケアマネジャーの役割もとても重要であることがわかります。早い段階から連携を密に取り支援をしていく必要があることがわかりました。

（兆生園居宅介護支援センター 介護支援専門員 奥田 秀美 氏）

- ・今回、研修会に参加し他職種との連携についての事例を聞いて、早い段階での在宅復帰に向けた取り組み（訓練）が出来ていたことで、経管栄養にはならず経口摂取が可能であり、さらにご本人の好みに合ったものを提供出来たことにより、体重の減少を防ぐことが出来ていた。今後も、ケアマネや家族、他職種が連携し、口腔ケアの継続が出来れば、ご本人の意欲も向上につながると思います。

（せせらぎ苑デイサービスセンター ケアワーカー 福本 めぐみ 氏）





事例検討会の感想（発表者の声）



甲南病院 地域連携室 社会福祉士
近藤 美和子 氏

今回発表してみて、院内の各専門職が日頃の仕事の中で、自然に連携を図れていることを改めて認識しました。そのようにして成り立った本人さんへのケアが、退院の時には在宅へうまくつながっていくように、退院支援の上で考えていきたいです。

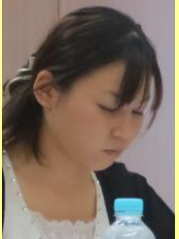
その際、在宅の家族が行える日々のケアという観点で考慮すること、また、院内の各職種が在宅の支援者とも必要時気軽に連絡し合えることができればと思います。

今回、院内の専門職に外へ出てもらい、顔つなぎできたことが本当によかったです。



甲南病院 言語聴覚士
谷 由布子 氏

この度の勉強会にて、退院時行われた指導内容が現場では行えていない事が多いと知り、指導の不十分さを反省させられました。ご家族様の負担を減らし、退院してからも継続して実施出来る方法を模索しなくては行けないと痛感しました。退院後も定期的に指導が行えるとより充実したサービスとなるのではないかと思います。その為にも院内だけの連携ではなく、院外の連携をもっと図っていく必要があると感じました。



甲南病院 管理栄養士
徳山 歩 氏

入院中、そして退院後の食事について考えていく中で、病院の中では、栄養状態、嗜好、形態、など退院に向けての介入については院内の連携が上手く取れたのではないかと感じました。しかし、本人にばかり目を向けてしまい、ご家族の様々な負担については考えが及ばず負担の軽減に努めることができませんでした。本人だけでなく、家族や支援を行っている方とも連携を行い、介助者の負担の軽減に努めていきたいと思ひます。



甲南病院 准看護師
堀 紀三子 氏

今回初めて参加させて頂きました。各職種、介護者が集まったの退院前カンファレンスの時期の大切さ、また、在宅支援に関わる入院中の看護のあり方を改めて感じさせられました。介護者も高齢であり、今後の介護に不安は持っているが、家で介護が出来るうちは積極的にしていきたい。そういった、家族の思いを知り各専門分野の専門性を活かし、情報提供を密に行い目標に向かって共に進む事がいかに大切であるのかを強く感じました。私にとって大切な時間を過ごさせて頂きました事を感謝し皆様の今後のご活躍をご期待いたします。



せせらぎ苑居宅介護支援センター
介護支援専門員 川畑 いずみ 氏

今回の事例を通して、改めて口腔ケアの重要性を学ぶことができました。重要性を理解しながらも、自分の役割として、在宅で介護されている家族の方に口腔ケアの大切さを伝えられていない事、認識の薄さに気付かされました。今後は少しずつでもご本人や家族の方に、大切さを伝える事と在宅の方ができる方法なども学び、一緒に伝えていけるようにしたいと思います。また、訪問歯科診療も活かしていきたいと思ひます。ありがとうございました。

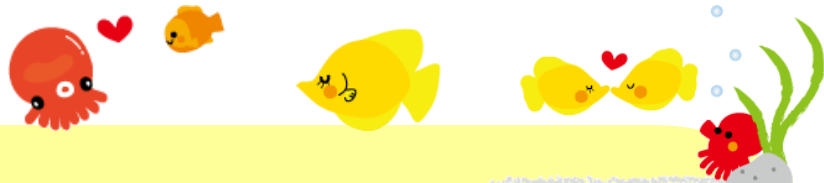


真岡歯科医院
真岡 淳之 氏

患者さんのお口の健康を守るのは、看護師さんや介護士さんといった常に患者さんの周りにいる方々です。歯科医師会も口腔ケアの普及活動を行っておりますが、入院された方や在宅療養を行っている患者様に、歯科医師や衛生士が毎日行えるわけではありません。こういった患者さんに口腔ケアや必要な診療を提供する為に、今後は実際に行っている方々と口腔内に関する連携をとって、協力して頂きながら歯科医療を提供できるような体制を作って行きたいと思ひます。

※ 発表者順に記載しております

知っとこ！！  情報！



＜講演内容の概要について＞

眞岡歯科医院 眞岡 淳之 氏

高齢者では嚥下機能が低下するために誤嚥性肺炎を発症すると考えられています。口腔ケアを行っていることと異物の誤嚥が少なく、誤嚥性肺炎の予防につながると考えられています。高齢者では通常では考えられない程の量の食物残渣がお口の中にあたり、歯や入れ歯が崩壊している事もあります。そういった状態を少しでも改善する為に高齢者の口腔ケアの大切さについて、講演させて頂きました。

高齢になると歯科治療は必要になるはずですが、70歳を境に受診率が低下します。これは様々な理由で通院困難になるためと考えられます。甲賀市では25年7月現在で高齢化率21.9%となっており、歯科治療が必要な方も受診が出来ていない可能性があります。この事態を考慮すると私たち歯科医師が地域の方が満足出来る歯科医療を提供していない可能性があります。

歯科医師会では高齢者の口腔機能の低下を防ぐ為に訪問歯科診療と口腔ケアを推進し、高齢者の口腔機能の向上を計っております。

歯科治療により嚥下機能の低下を防ぐ事は困難ですが、虫歯や歯周病の治療や予防、入れ歯の作製、口腔ケアを通じて摂食嚥下ができる環境を整える事が出来ます。まだまだ我々歯科医療従事者が、在宅療養中の方々のお口の健康を守れているとは言いがたいですが、訪問歯科診療や口腔ケアを通して、食べる機能の維持向上のお手伝いをさせて頂く事により、少しでも嚥下機能を維持向上させ、在宅療養中の患者様に何らかの協力ができたら良いと考えております。

皆様の担当なさっている患者さんのお口の状態をチェックし問題がありましたら、かかりつけ歯科医院または歯科医師会担当窓口にご依頼下さい。(担当窓口：飯田歯科医院 FAX：0748-82-8147)



＜言語聴覚士の仕事について＞

甲南病院 言語聴覚士 谷 由布子 氏

勉強会への参加にあたり多く聞かれたのが「言語聴覚士はどんなことをしているのか」ということでした。今回は言語聴覚士の仕事について一部ご紹介したいと思います。

まず言語聴覚士とは、ことばによるコミュニケーションに問題がある方にリハビリを行い、自分らしい生活を構築できるよう支援する専門職です。摂食・嚥下の問題にも専門的に対応しており、略称をST (Speech-Language-Hearing Therapist) といいます。

対象となる患者さんは、失語症、言語発達障害、聴覚障害、音声障害、構音障害、摂食嚥下障害、高次脳機能障害、自閉症など、小児から高齢者までの幅広い層になります。これらの障害に対し検査・評価を実施し、必要に応じて訓練、指導、助言、その他の援助を行います。

その中より、嚥下障害患者さんに実施する訓練についてご紹介致します。まず食べ物をういれない間接嚥下訓練として、頸部のリラクゼーション、顔面マッサージ、口腔器官運動、アスマッサージなどがあります。この訓練は誤嚥の危険が高く食べ物を使った訓練を行うことのできない方や、食前の嚥下体操などのように嚥下諸器官の準備運動の目的で行います。次に直接嚥下訓練です。この訓練では食べ物を用い、誤嚥を防ぐための食事姿勢、代償的嚥下法、食形態の工夫などの代償手段を用いることで、誤嚥の防止を図りながら、安全かつ適切な難易度の食事を段階的に進めます。以上のような訓練を行いながら、少しでも患者様の嚥下機能が改善されるよう努めております。

これらはほんの一部であり、この場ではご紹介しきれません。自宅で行える体操や食事の際に気を付けたいことなどや、ことばが出てこない・理解できない・聞き取りにくい、食事中にムセる、物忘れがあるなどの症状がある方がいらっしゃったらご相談下さい。



次回の参加もお待ちしております！！

次回の研修会のお知らせ

日時：平成26年10月16日(木)

時間：14時～16時

場所：甲賀合同庁舎 4A 大会議室

内容：「顔の見える関係から始まる在宅支援～認知症～」(仮)

